

## 平成20年度第2回瀬戸内海東部カタクチイワシ漁況予報

－ 別表の水産関係機関が検討し独立行政法人水産総合研究センター  
瀬戸内海区水産研究所がとりまとめた結果 －

### 今後の見通し(2008年7月～8月)のポイント

(1) 来遊量：

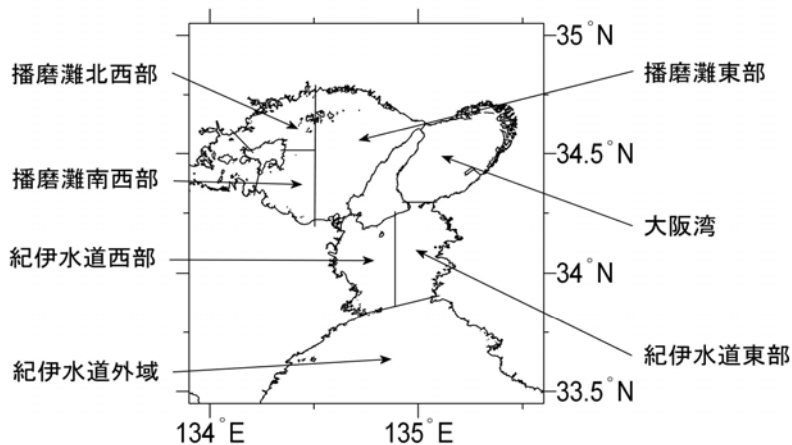
シラスは平年を下回る。カタクチイワシ(小羽から大羽)は前年を下回る。

(2) 漁場：

紀伊水道では不漁であった2007年、平年を下回る。

大阪湾では平年並みであった2007年を下回る。カタクチイワシは好漁であった2007年を下回る。

播磨灘では平年を下回る。



### 問い合わせ先

水産庁 増殖推進部 漁場資源課 沿岸資源班

担当：大隈、和田、染川

電話：03-3502-8111(内線6800)、直通電話：03-6744-2377、ファックス：03-3592-0759

当資料のホームページ掲載先URL

<http://www.jfa.maff.go.jp/j/press/>

独立行政法人水産総合研究センター 瀬戸内海区水産研究所 業務推進部

電話：0829-55-3406、ファックス：0829-54-1216

当資料のホームページ掲載先URL

<http://abchan.job.affrc.go.jp/>

<http://feis.fra.affrc.go.jp/>

# 平成20年度第2回瀬戸内海東部カタクチイワシ漁況予報

## 1. 今後の見通し（2008年7月～8月）

### シラス（本年夏季発生群）

紀伊水道では不漁であった2007年、平年を下回る。

大阪湾では平年並みであった2007年を下回る。

播磨灘では平年を下回る。

標本漁協、もしくは標本船の漁獲量を各海域の指標とし（図1～3）、特に断りがない場合、1985～2007年の平均値を平年値とした。

### カタクチイワシ（小羽から大羽）

大阪湾では好漁であった2007年を下回る。

標本船の漁獲量を指標とし（図4）、1985～2007年の平均値を平年値とした。

## 2. 漁況の経過（2008年5月～6月）および今後の見通しについての説明

### (1) シラス漁況

紀伊水道東部（和歌山県側）では5月の漁獲量は前年の56%、平年の22%であった。

紀伊水道西部（徳島県側）では5月の漁獲量は前年の160%、平年の20%であった。6月も低調に推移している。

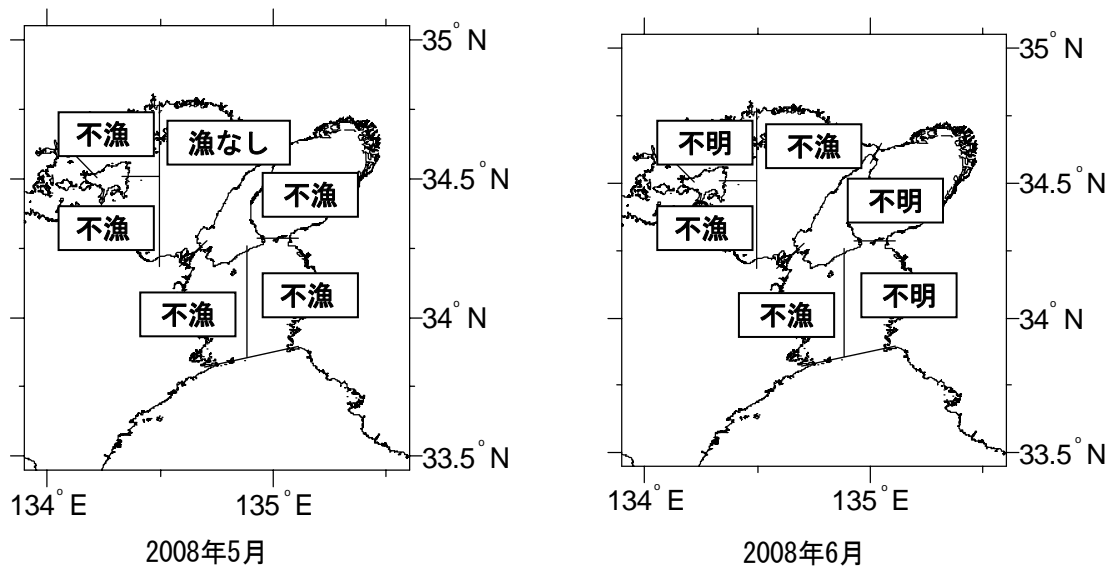
大阪湾（大阪府）では2008年の漁は例年より早く4月中旬に解禁したが、標本漁協の漁獲量は0tであった（前年14.8t）。5月に入っても外海からの流入は少なく、5月の漁獲量は前年の19%、平年の17%であった。前年同様、5月下旬頃から湾内発生と考えられる小型の個体がみられ始め、現在はこの群れと一部外海発生群を漁獲していると思われる。

大阪湾（兵庫県）では2008年の漁は前年より1ヶ月程度遅い5月19日から始まった。5月の漁獲量は前年の23%、平年の13%であった。1日1統当りの漁獲量は、漁期開始当初は200～300kgと少なかったが、6月に入ってやや増加し、6月中旬は400～800kgとなっている。

播磨灘東部（兵庫県側）では2008年の漁は前年より12日遅い6月2日から始まった。標本漁協の解禁当日の漁獲量は約80tであったが、それ以降は1日15t前後で推移している。また、西寄りの海域では魚体が小さく、カタクチイワシシラス以外の混獲物も多かったため、7～12日にかけて休漁し、13日から漁を再開した。

播磨灘南西部（香川県側）では2008年の漁は前年同様、5月23日から始まったが、5、6月とも低調に推移している。

播磨灘北西部（岡山県側）では2008年の漁は5月24日から始まった。5月の漁獲量は前年の11%、平年（2000～2007年の平均値を平年値とした）の13%であった。



2008年5～6月のシラス漁況

## (2) 産卵量

紀伊水道外域東部では5月は前年の223%であったが、平年（1998～2007年の平均値を平年値とした）の21%であった。6月は前年の2%、平年の4%であった。紀伊水道東部では5月は前年の50%、平年の6%で、6月は前年の17%、平年の19%であった。

紀伊水道外域西部では5月は前年の56%、平年の30%であった。紀伊水道西部では5月は前年の74%、平年の30%であった。

大阪湾では5月は前年の41%、平年の97%、6月は前年の50%、平年の89%であった。

播磨灘では6月は前年の49%、平年の16%であった（図5）。

## (3) 今後の見通しの説明

### シラス（本年夏季発生群）

6月17日現在、黒潮は室戸岬～潮岬にかけて、2008年4月下旬以降、接岸傾向で推移している。足摺岬では、4月下旬に一時的に接岸を示したが、5月以降にやや離岸となり、現在も同じ傾向を示している。足摺岬で黒潮がやや離岸していること、更に水産総合研究センターの海況予報モデル(FRA-JCOPE)の予報結果を併せて考察すると、7月前半まで黒潮は潮岬沖で接岸しているが、7月後半以降は小蛇行通過に伴い潮岬沖で離接岸を繰り返すと予測される。

紀伊水道東部では外海発生群および内海発生群が漁獲されていると推定される。紀伊水道外域東部、紀伊水道東部および大阪湾の5～6月の産卵量は前年、平年を下回っており、漁獲量は前年、平年を下回ると考えられる。

紀伊水道西部でも外海発生群および内海発生群が漁獲されていると推定される。7～8月の漁獲量は、紀伊水道および播磨灘の各海域において産卵があり、紀伊水道と播磨灘の6月の水温が低いほど多くなる傾向があり、特に紀伊水道の水温の影響が大きい（図6）。2008年6月の産卵量は紀伊水道東部および播磨灘で前年、平年を下回った。また6月の水温は播磨灘で前年、平年並み（平年値 $-0.5^{\circ}\text{C} \leq$ 並み $\leq$ 平年値 $+0.5^{\circ}\text{C}$ ）であった。しかし、紀伊水道では前年より $1.6^{\circ}\text{C}$ 高く、平年よりやや高め（平年値 $+0.5^{\circ}\text{C} <$ やや高め $\leq$ 平年値 $+1.0^{\circ}\text{C}$ ）であった。産卵と水温の状況から判断すると漁獲量は前年、平年を下回ると考えられる。

大阪湾では外海発生群が春から引き続き漁獲されるのに加え、内海発生群が6月以降にシラスとして漁獲されるようになる。現在、黒潮は接岸傾向で大阪湾への来遊条件はよいが、紀伊水道での漁が低調であり、外海発生群の

漁獲はあまり期待できない。またカタクチイワシ卵の採集状況から、本年夏季の大阪湾における内海発生群は前年の半分程度と推測され、これらが順調に漁獲物に加入したとしても資源量はそれほど多くないと考えられる。これらのことから、漁獲量は前年、平年を下回ると考えられる。

内海発生群が漁の主体である播磨灘では6月の水温が低いほど7~8月の漁獲量が多くなる傾向がある(図7)。また明瞭でないものの6月の産卵量が多いほど7~8月の漁獲量が多くなる傾向がある(図7)。2008年6月の水温は平年並みであるが、産卵量が少ないことから(図5)、漁獲量は平年を下回ると予想される(図8)。

#### **カタクチイワシ(小羽から大羽)**

大阪湾では漁期当初は前年発生の子魚、その後は本年の春シラス漁で漁獲の対象となった0才魚が、小・中羽として漁獲される。前年の7~9月には平年を上回る0才魚の漁獲が見られた。しかし本年冬季の水温が低かったためか、春季でカタクチイワシの親魚がみられなかったことから、多くが南下し、現在も大阪湾に滞留している1才魚はあまり多くないと考えられる。このことと、本年春シラスの漁況や夏シラスの漁況予測から判断して好漁であった前年を下回ると考えられる。

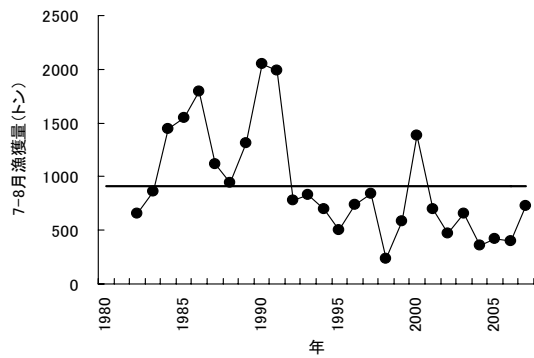
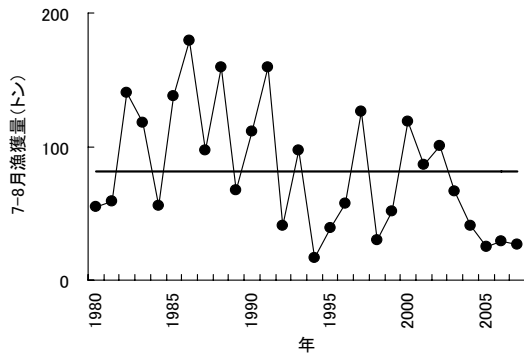


図1 紀伊水道東部（和歌山県側：左）および紀伊水道西部（徳島県側：右）の標本漁協におけるシラス漁獲量（実線は平年値）

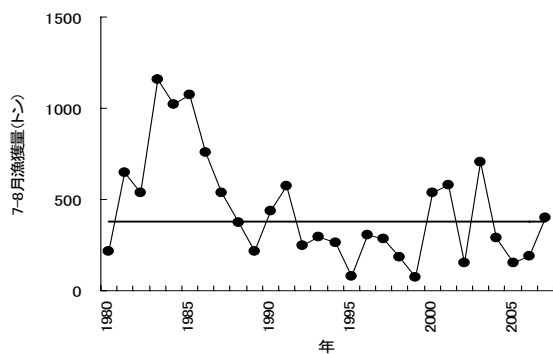
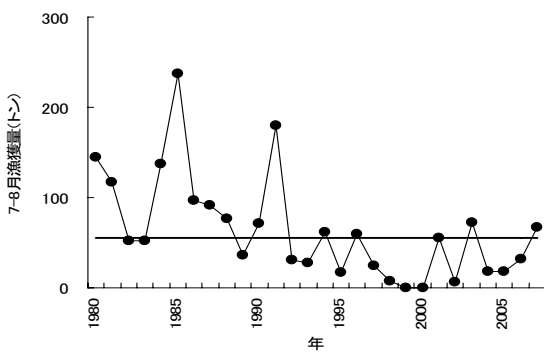


図2 大阪湾（大阪府：左、兵庫県：右）の標本漁協におけるシラス漁獲量（実線は平年値）

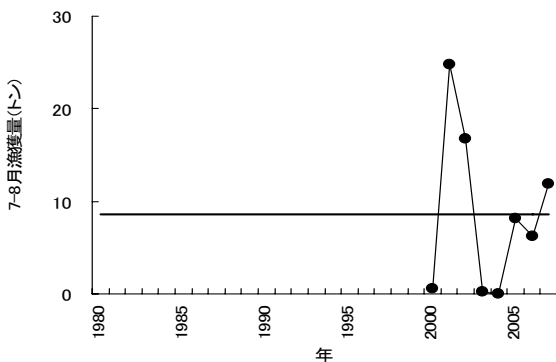
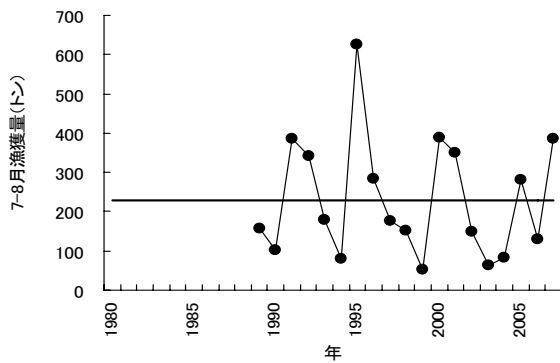
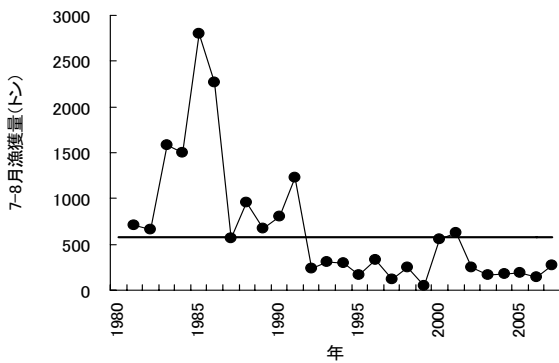


図3 播磨灘東部（兵庫県側：左上）、播磨灘南西部（香川県側：右上、平年値は1989～2007年の平均値）の標本漁協のシラス漁獲量、および播磨灘北西部（岡山県側：左下）の標本船のシラス漁獲量（実線は平年値）

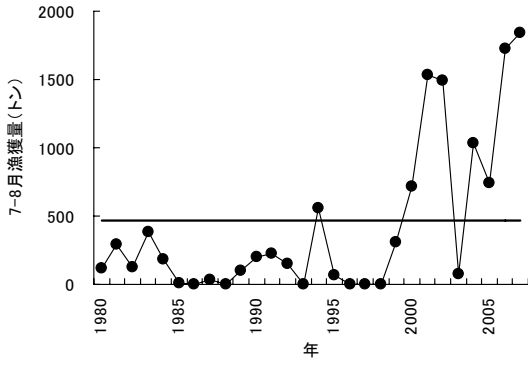


図4 大阪湾の標本船におけるカタクチイワシ漁獲量（実線は平年値）

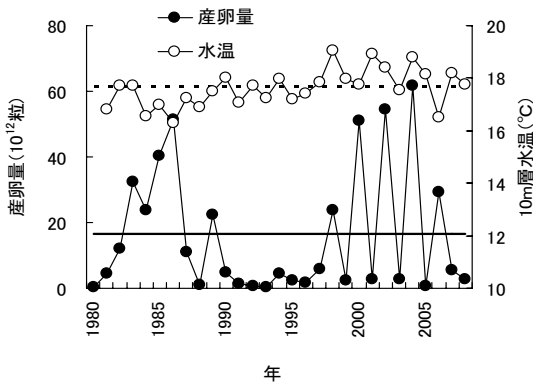


図5 播磨灘における6月の産卵量と10m層水温（実線は産卵量、点線は10m層水温の平年値）

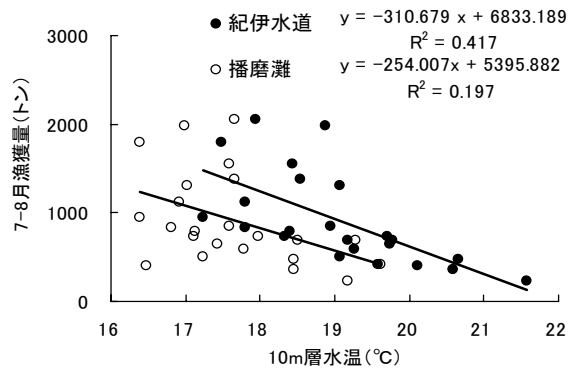


図6 紀伊水道西部・播磨灘における6月の10m層水温と紀伊水道西部の標本漁協におけるシラス漁獲量の関係

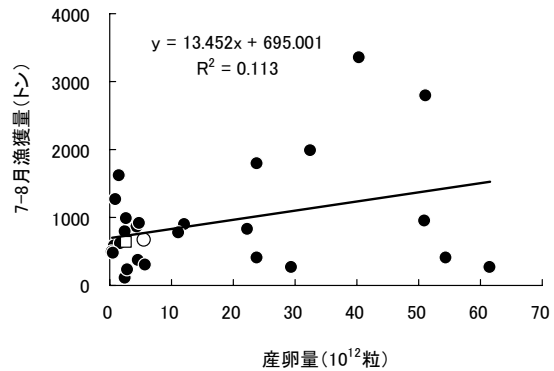
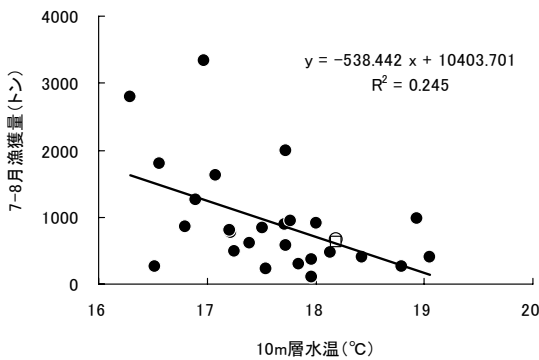


図7 播磨灘における6月の10m層水温と標本漁協のシラス漁獲量の関係（左）および6月の産卵量と標本漁協のシラス漁獲量の関係（右）

○は2007年の漁獲量、□は2008年の予測値（産卵量と水温をパラメータとした重回帰分析から求めているため、各図の回帰直線上にない）

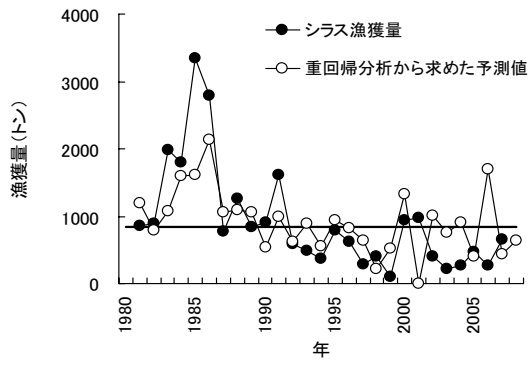


図8 播磨灘の標本漁協における7-8月のシラス漁獲量と重回帰分析から求めた漁獲量予測値（実線は平年値）

## 参画機関

和歌山県農林水産総合技術センター 水産試験場	香川県水産試験場
大阪府環境農林水産総合研究所 水産技術センター	徳島県立農林水産総合技術支援センター 水産研究所
兵庫県立農林水産技術総合センター 水産技術センター	水産庁 増殖推進部 漁場資源課
岡山県水産試験場	独立行政法人 水産総合研究センター 中央水産研究所 瀬戸内海区水産研究所